

# アトピー性皮膚炎

## オンライン診療を併用する意義

皮膚科疾患については、多くの場合に診断時には、種々の検査が必要であり対面での診察が必須である。一方で、診断後の治療については、薬物療法が中心であり、また症状が安定していればその経過の観察はオンラインでも十分に対応可能である。

また皮膚疾患患者において精神的負担が強い患者の場合は、患者家族とのコミュニケーションが重要となる場合があり、そのような場合にオンラインは有効となる。

国内では8K技術を活用し、皮膚の画像診断を行う取り組みも始まりつつあるが、医師が直接患者とやりとりを行うオンライン診療では、現時点では診断を行うことは目的とはしない。

## 基本となる治療・診療ガイドライン

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 年版（皮膚科学会）

## オンライン診療を導入可能な状況

- アトピー性皮膚炎の診断が行われていること
- 診断後にその疾患の病態や治療法を分かりやすく具体的に説明し、患者と認識を共有できる場合。
- 特にアトピー性皮膚炎の場合、患者や家族が治療の意義を十分に理解し積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を実行できると想定される場合。

## オンライン診療における診療内容

- 予想される治療経過の確認
- 継続した生活指導、薬物療法
- 処方薬の軽微な変更

## オンライン診療を控えるべき状況

- 想定される治療経過と異なる経過をたどっている場合
- 症状の増悪が疑われる場合

## その他の留意点

- 病状の変化がなく、患者からの対面での診療の希望が特にない場合には、オンラインの診察が連続しても差し支えない。
- 治療を進める上で必要な検査や処置については、対面診療での実施頻度と等しい間隔で実施すること。必要な検査が抜け落ちたり、間隔が伸びることがないように、最低限の対面診察の頻度を予め患者と合意しておく必要がある。
- 内服薬のみならず、外用薬の使用方法や起こりうる局所性の副作用についても事前に十分に患者に説明しておく必要がある。
- 対面診療かオンライン診療かを問わず、病態や治療に対する不十分な理解や不安が原因で、患者から医師に適切な病状の申告が行われていないことがある。特にオン